

江南中学校・向山小学校・向山幼稚園
魅力ある学校づくり 基本計画（素案）
たたき台

令和6年（2024年）●月

熊本市教育委員会

目 次

第1章	はじめに	1
1.	計画策定の経緯	2
第2章	魅力ある学校づくり	3
1.	既存各校について	3
2.	児童生徒・園児数の現況及び将来推計	5
3.	向山校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向けて	6
4.	こどもたちとともに創りあげる学校	6
5.	新しい学校における教育の基本的な考え方と施設整備方針	7
6.	放課後児童育成クラブ	14
第3章	施設整備の基本的な考え方	15
1.	計画地について	15
2.	施設規模の検討	17
3.	施設配置の検討	18
4.	施設計画の検討	20
5.	その他の検討事項	20
第4章	概算事業費	21
第5章	事業手法	22
1.	事業手法の比較と事業手法のイメージ	22
2.	事業者の意見	27
3.	事業手法の導入理由	27
第6章	余剰地・余剰スペースの活用について	28
第7章	事業スケジュール	29
第8章	検討記録	30
1.	ワークショップ	30
2.	新校準備会	34

第1章 はじめに

熊本市の教育は、熊本市教育振興基本計画（熊本市教育大綱）の基本理念「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」に基づいて、こどもたち一人ひとりが、社会環境の変化に適切に対応し、学びに向かう力を持ち、豊かな人間性、健やかな体を備えた、主体的に考え行動できる人づくりを進めることを目指しています。

そのための取組として、小中一貫教育を推進することにより、学力向上と児童生徒の指導の充実を図ることとしています。

また、新しい時代の学びの実現に向け、学校施設の安全・安心を確保しつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、社会変化に対応した、安全・安心で質の高い教育環境の確保が重要です。

このような背景のもと、本市教育委員会では、向山校区内の江南中学校・向山小学校・向山幼稚園について、施設一体型義務教育学校（以下、「新校」といいます。）設置に向けて検討を進め、児童生徒の年齢、成長、発達に即した教育環境を整備することで、教育の質の更なる充実を図りたいと考えています。

また、魅力ある学校づくりに向けた取組として、新校準備会・ワークショップ・アンケートを実施しました。これは、こども、保護者、教職員、そして地域の皆さまが学校に関与し、共に魅力ある学校づくりに積極的に取り組む機会を創出するためのものです。検討の過程で得られたこどもたちの視点からの提案や、地域の皆さまからの意見を受け、新しい学校の設計や教育カリキュラム等の検討に活かしていく方針です。

本基本計画は、新しい学校における教育の基本的な考え方や施設整備等の在り方についてまとめたものです。今後、関係者からの意見を踏まえて、より具体的な検討を進めていきます。

1. 計画策定の経緯

(1) 計画の位置づけ

人口減少や自然災害など、社会構造の変化や目まぐるしい時代潮流の中においても、本市が様々な課題を解決しながら、だれもが明るい未来を展望し、希望を抱くことができるまちづくりを行うため、令和6年（2024年）3月に「熊本市第8次総合計画」を策定しました。

この中では、目指すまちの姿として、市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」を掲げています。

教育委員会では、この熊本市総合計画に基づき、令和6年（2024年）3月に「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」を基本理念とした「熊本市教育振興基本計画（令和6～9年度）〔熊本市教育大綱〕」を策定しました。

本計画は、この「熊本市教育振興基本計画」を具体的に進めるための計画として位置付けています。

(2) 計画期間

令和6年度（2024年度）から新校舎の供用開始までを計画期間とし、策定後に児童生徒数の急激な増減や社会状況の変化があった場合については、見直しを行う場合があります。

(3) 検討の経緯

これまでの検討の経緯は以下のとおりです。

年月日	検討の経緯
令和5年（2023年）6月29日	向山地域、江南中学校・向山小学校・向山幼稚園保護者、教職員説明会
令和5年（2023年）10月6日	新校準備会開催に向けての意見交換会
令和5年（2023年）10月25日	江南中学校ワークショップ（中1・中2）①
令和5年（2023年）11月6日	江南中学校ワークショップ（中1・中2）②
令和5年（2023年）11月22日	江南中学校・向山小学校・向山幼教職員向けワークショップ
令和5年（2023年）12月13日	向山幼稚園ワークショップ（年長児）
令和5年（2023年）12月19日	向山小学校ワークショップ（小3～小6）
令和5年（2023年）12月7日	向山校区第1回新校準備会
令和6年（2024年）2月9日	向山小学校新入学生保護者説明会
令和6年（2024年）2月15日	向山校区第2回新校準備会
令和6年（2024年）3月5日	向山小学校・向山幼稚園・保育園・こども園長説明
令和6年（2024年）6月24日	向山校区第3回新校準備会

第2章 魅力ある学校づくり

1. 既存各校について

(1) 各校の概要

現在、江南中学校・向山小学校においては、建設から60年以上が経過しており、施設の老朽化に伴う更新をする必要があります。

表 2.1 敷地概要

施設名	所在地	竣工年	敷地面積	延床面積
江南中学校	熊本市中央区本山町 75 番地	昭和 31 年 (1956 年)	23,240 m ²	5,321 m ²
向山小学校	熊本市中央区本山 4 丁目 5 番 11 号	昭和 34 年 (1959 年)	16,652 m ²	5,061 m ²
向山幼稚園	熊本市中央区本山 4 丁目 5 番 2 号	昭和 41 年 (1966 年)	2,943 m ²	889 m ²
合計		—	42,835 m ²	11,271 m ²

※敷地面積は施設台帳における運動場面積を含むものです。

※延床面積は、江南中学校及び向山小学校は熊本市施設白書「06 施設白書（2章）市営住宅・学校」に記載の面積であり、向山幼稚園は「11 施設白書（2章）子育て支援施設」に記載の面積です。

(2) 各校の特色

江南中学校・向山小学校・向山幼稚園においては、以下の教育目標を掲げ、地域との連携による教育活動等が行われています。

表 2.1 各校の特色

施設名	令和6年度教育目標	創立年	活動等
江南 中学校	自ら気づき、考え、主体的に 行動できる力を育む教育の推 進	昭和22年 (1947年)	【主な活動】 スマートフォンの使用時間を改善し、家族団 らんや学習、早めの就寝などにつなげるこ とを目的とした「NMD(No Media Day) (メデ ィアを利用しない日)」の取り組みを実践して います。 【部活動】 野球部、バレーボール部(女子)、バスケット ボール部(男子・女子)、ソフトテニス部 (男子・女子)、吹奏楽部、美術部
向山 小学校	一人一人が輝く 楽しい学校 自ら考え主体的に行動する 人を育む教育の推進	明治9年 (1876年)	【主な活動】 学年ごとに様々な学習活動を行っています。 6年生：地域企業の取材 5年生：白川の研究 4年生：地域の町歩き 3年生：道路沿いの花壇整備
向山 幼稚園	夢中になって遊び、笑顔で つながりあう向山幼稚園	大正15年 (1926年)	【園の特徴】 熊本市研究モデル園として、ESD 教育(持続 可能な開発のための教育)に取り組んでいま す。

2. 児童生徒・園児数の現況及び将来推計

(1) 児童生徒・園児数及び学級数の現況

現在の児童生徒・園児数は以下のとおりです（令和6年（2024年）5月1日現在）。

表 2.2 既存各校の児童生徒数の現況（令和6年（2024年）5月1日現在）

施設名	学級数	児童・生徒・園児数	教職員数
江南中学校	10 学級（2学級）	241 人（2 人）	23 人
向山小学校	21 学級（4 学級）	509 人（13 人）	32 人
向山幼稚園	3 学級	34 人	5 人

※括弧内は、特別支援学級数及び特別支援学級の児童生徒数です（内数）。

現在、向山校区においては、児童生徒数がやや増加傾向にあります。

表 2.3 既存各校の児童生徒数の推計（令和5年（2023年）5月1日現在）

	施設名	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
児童 生徒数 (人)	江南中学校	241	224	199	221	243	257
	向山小学校	496	522	540	546	529	547
	計	737	746	739	767	772	804

※通常学級のみ児童生徒数の推計です。

(2) 計画学級数・教室数

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」（以下、「標準法」という。）では、学級編制の基準を以下に示すとおりに定めています。また、本市では中学1年生で35人学級を実施しています。本計画では児童生徒数の推計を踏まえ、1学年3学級、9学年×3学級の27学級と、特別支援学級の設置を基本とします。

特別支援学級は、6学級を想定しています。通級指導教室は、2教室を想定しています。

表 2.4 学年編成の基準（令和6年（2024年）3月31日現在）

区分				Ⅰ学級の児童又は生徒の数 (標準法に基づく学級数)
通常 学級	単式学級	小学校及び義務教育学校前期課程		35 人
		中学校及び義務教育学校後期課程		40 人
	複式学級	小学校及び	Ⅰ学年を含む	8 人
		義務教育学校前期課程	Ⅰ学年を含まない	16 人
		中学校及び義務教育学校後期課程		8 人
特別支援学級				8 人

表 2.5 計画学級数

	前期課程						後期課程			合計
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	
通常教室	3	3	3	3	3	3	3	3	3	27
特別支援 学級	4						2			6
通級指導 教室	1						1			2

3. 向山校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向けて

こどもたちにとって良好な教育環境を確保するとともに、地域の拠点としての魅力ある学校づくりに向け、基本構想では、以下の8点について整理し、検討を行いました。

新しい学びの創造

- 小中一貫教育に適した教育環境の整備
- 幼小連携の推進・幼小中一体整備
- 社会状況の変化に対応する教育環境の整備
- 特色あるカリキュラム、教育課程の編成

学校・地域の「共創空間」の創造

- 地域の歴史・特色をいかした施設整備
- 地域の拠点となる機能的な施設整備
- 避難所機能を有した施設整備
- 余剰地及び余剰スペースの活用

4. こどもたちとともに創りあげる学校

こども、保護者、地域住民、教職員とのワークショップやアンケート、新校準備会等を実施し、ご意見等を踏まえて、新しい学校における教育の基本的な考え方や施設整備方針をまとめます。

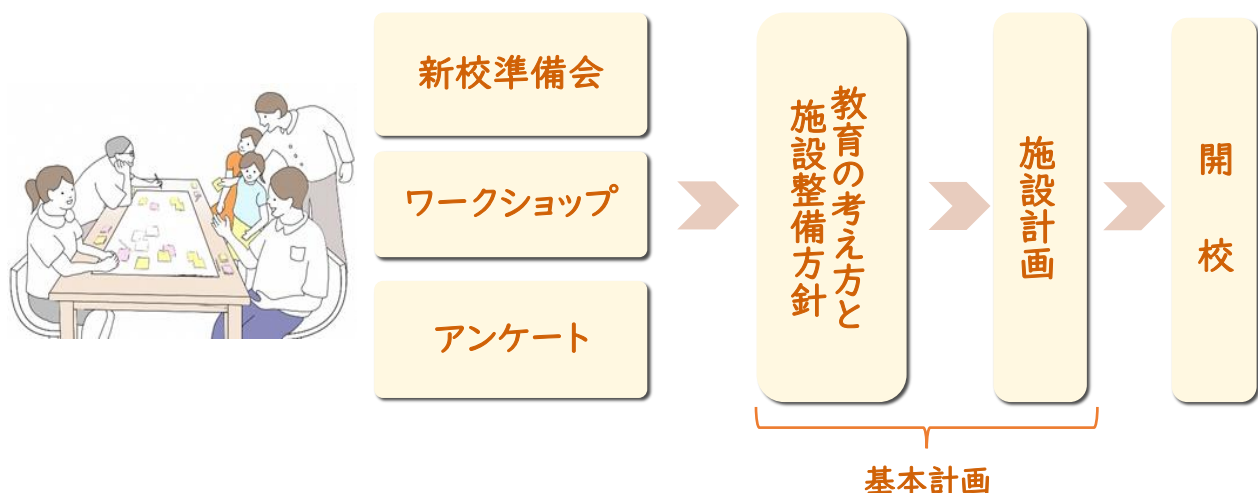


図 2.1 各意見の反映イメージ

5. 新しい学校における教育の基本的な考え方と施設整備方針

基本構想及び新校準備会、ワークショップでの意見を踏まえ、義務教育学校における教育の基本的な考え方と施設整備方針を以下に示します。

(1) 新しい学びの創造

1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備

江南中学校・向山小学校は、令和2年度（2020年度）からス小中一貫教育がスタートしており、より良い教育環境を目指し、向山校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向け、義務教育学校への移行を目指します。

義務教育学校では、9年間の一貫した指導や小学校高学年の教科担任制、異学年の交流活動等の多様な教育実践が可能となり、児童生徒の成長や教職員の指導の面で高い効果が期待できます。

施設一体型義務教育学校※の特色

- (ア) 教育課程編成の自由度が高いため、個に応じた学習や教科担任制の授業を取り入れやすいことを活かし、児童生徒を多面的にとらえ、つまずきの解消に対応し、児童生徒の自ら学ぶ意欲の向上につなげる教育ができます。
- (イ) 小中学校が一体化した教職員組織のため、児童・生徒指導に関する情報を常日頃から共有し、児童生徒の安心感につながる、よりきめ細かな指導を行うことができます。
- (ウ) 児童生徒が1つの学校で一緒に教育を受けることで、「異学年交流」が日常的に行われ、それにより児童生徒の自己肯定感や自己有用感が高まり、将来の目標や夢の実現に向かって自信を持って取り組んでいくことができます。

※義務教育学校は、平成28年（2016年）4月に制度化され、小学校6年間と中学校3年間で併せて、9年間を一貫した教育を行う新しい学校制度をいいます。その中でも「施設一体型」は、同じ敷地・校舎内で9年間を一緒に過ごすことを指し、教職員間の連携向上、異学年交流の促進等の利点があります。

2) 幼小連携の推進・幼小中一体整備

本市では、令和4年（2022年）6月、教育委員会と市立幼稚園が、本市の幼児教育施設と連携を図りつつ、幼児教育の拠点としての役割を担い、より質の高い幼児教育を提供していくために、今後、5年間の基本的な指針として「熊本市立幼稚園まなび創造プログラム（令和4～8年度）」を策定しました。

向山幼稚園においては、幼小の滑らかな接続を見通した教育課程を編成し、幼児教育施設における教育課程の編成の参考となるよう、その教育課程に基づいた教育の実践を小学校・中学校と共有していきます。幼児期と児童期以降の学びの連続性を持たせるとともに、教諭や幼児・児童・生徒の交流活動を促進し、人事交流等による相互理解を深めること等を目指し、本市ならではの新しい幼小中連携モデルとして、施設の改築時期に合わせた幼稚園、小学校及び中学校施設の一体整備等の検討を行います。

熊本市立幼稚園まなび創造プログラム（令和4～8年度）

本市では、本市の幼児教育を取り巻く環境を踏まえつつ、新しい時代に即した質の高い幼児教育を推進するための施策の一つとして、幼小連携の推進を行っています。

<施策>

- ・幼小連携カリキュラムの充実と活用促進
- ・幼小連携支援員の配置
- ・幼小中連携の充実
- ・幼稚園教諭と小学校教諭の人事交流
- ・豊かな体験につながる幼稚園施設の一体整備

3) 社会状況の変化に対応する教育環境の整備

こどもたちを取り巻く環境は変化を続けており、少子化による児童生徒数の減少、昨今の新型コロナウイルス感染症等の感染拡大による生活様式の変容、教職員の働き方改革への対応が求められています。

これからの予測困難な時代においては、一人ひとりの児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

このような状況を踏まえ、社会の状況に対応し、主体的に行動できるこどもを育む教育環境の整備を行います。

① これから求められる教育環境

- ・学校教育の基盤的ツールとして必要不可欠な ICT（Information and Communication Technology）を活用し、教育の質の向上に繋げること
- ・物理的・心理的な障壁を取り除き、インクルーシブな社会環境を整備すること
- ・教職員が児童生徒に対して、効率的・効果的な教育活動を行うことができる環境づくり

② 基本計画における施設整備方針

<令和の日本型学校教育※のスタンダード>

ICT を活用した授業を想定し、通常学級は文部科学省が公表している GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想等を踏まえた適切な面積が確保できるよう検討する。

＜インクルーシブ教育システム¹の構築・性の多様性の尊重＞

特別支援教育の充実、エレベーターの設置、ユニバーサルデザインを導入した施設づくり、児童生徒用の更衣室や多様な利用者に配慮した各階へのバリアフリートイレの整備等

＜教職員の働く場としての機能向上＞

打合せや個人・協働での作業等の多目的な使用が可能な共有スペース、リフレッシュや教員同士の情報交換等ができるスペースの整備を検討

＜公共施設の資産総量の適正化＞

前期・後期課程の室の共用化による施設規模の適正化、民間企業のノウハウや資金の活用等による総コストの削減を検討。

※中央教育審議会答申（令和３年（２０２１年）１月）の中で、日本の学校教育は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「令和の日本型学校教育」を目指すとしています。

¹ **インクルーシブ教育システム** …人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」（署名時仮訳：教育制度一般）から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

4) 特色あるカリキュラム、教育課程の編成

熊本市第8次総合計画に基づき、熊本市教育振興基本計画には、「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」と「最適な教育環境の整備」が施策の基本方針として挙げられています。

「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」については、新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業の改善が求められています。児童生徒が自ら問いを見いだし解決していく探究型の学びの過程の中で、実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力を身に付けることができるよう、全ての教員が授業の質の向上や効果的な学びの手法等の研究を行い、学校全体でカリキュラム（教育課程）を工夫する必要があります。

図 2.2 向山校区「幼小中一貫教育目標」グランドデザインにもあるように、江南中学校・向山小学校・向山幼稚園は12年間を通した「学びの連続性」と、職員集団としての「指導の一貫性」を大切にしています。各学校・園の職員が共に研修を受ける機会を確保したり、それぞれの学校で乗り入れ授業を実施したりすることで、職員は互いの学習内容や指導技術などを共有したり、お互いの教育観、こども観を学び合ったりすることができ、それがこどもの「学びの連続性」につながっていきます。

また、表 2.6は、江南中学校・向山小学校・向山幼稚園が作成した連携カリキュラムです。グランドデザインをもとに、生活・学習・交流の視点から年齢ごとの目指すこどもの姿を表しています。ここにも、それぞれの学校・園同士の「指導の一貫性」が反映されています。

(3) 向山校区「幼小中一貫教育目標」グランドデザイン

江南中学校・向山小学校・向山幼稚園においては、以下のグランドデザインを掲げ、1小1中の向山校区の特性を生かし、9年間（12年間）を通じた、系統的な教育を行っています。



図 2.2 向山校区「幼小中一貫教育目標」グランドデザイン

表 2.6 連携カリキュラム

令和5年度 向山幼稚園・向山小学校・江南中学校 連携カリキュラム										
「夢をもち、輝き続ける子どもの育成」 【取り組みの重点項目】										
○ 幼小中の発達段階に応じた生活習慣を整えることで心身ともに健やかな子どもの育成を図る。 ○ 幼小・小・小中の接続期におけるカリキュラムの作成・実践等を行うことで滑らかな校種間の接続を図る。 ○ 幼稚園、小学校、中学校の校種を超えた子ども同士との交流活動を、日常的または意図的に行う。										
幼小・中 年齢・学年	幼稚園			小学校			中学校			
	3歳	4歳	5歳	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年	
めざす姿	・誰かと一緒にいることを楽しむ子ども ・気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ子ども			・友達と一緒に遊ぶ楽しさを体験する子ども	・仲よく遊び助け合う子ども	・よいところを認め、励まし合う子ども	・互いのちがいを認め合い、よりよい考えをつくり出せる子ども	・役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める子ども		
生活	・自分の思いを言葉や表情で伝え、友達と一緒に生活する楽しさを知る。 ・気の合う友達とかわりながら一緒に遊ぶ中で、自分の考えを出したり友達の思いに気付いたりする。			・友達の思いや考えに気付く。自分の考えを伝えたり調整したりする。	・自分の生活習慣を振り返りながら、まじりの工夫を模索することができる。	・自分の体の清潔や健康について理解し、健康な生活を送ることができる。	・心身の健康について理解し、将来の健康につながる生活を送ることができる。	・規範正しい生活を心がけ、自らの健康管理を行う。 ・自らの生活の中の課題に目を向け改善することで、自律した生活を送ることができる。		
あいさつ	・生活や遊びに必要な言葉を積極的に使おうとする。			・友達や先生に自分たちの言葉であいさつや返事をします。	・園内で会う人に、親しみをもって日常のあいさつをする。	・先生や地域の人に分かるようにあいさつや返事をします。	・誰に対しても自分から進んで話しかけようとする。	・その場に応じた気持ちや相手の立場にあわせてあいさつをする。	・相手や時と場合に応じて、清々しい表情と態度で周囲の人たちにあいさつができる。	
話す	・思いを伝える簡単な言葉を積極的に使おうとする。聞いてもらう喜びを感じる。			・自分の経験したことや感じたことを、聞いたり話したりしてもらう。	・自分の思いや考えを相手に分かる言葉で話し、伝えようとする。	・みんなの前で、自分の意見や気持ちをわかりやすく話す。	・相手の気持ちを考えて、筋道を立ててわかるように話す。	・思いやりや気持ちもちも、相手の立場にあわせて自分の思いや考えを話す。	・お互いの立場を踏まえた適切な言葉を選び、自分の思いや考えまわりの中でしめて、相手に伝えることができる。 ・社会人として適用する言葉遣いで、時と場合に応じた話をすること	
聞く	・興味のあることや面白い人の話を聞くこととする。			・周りの人の話を興味をもつて聞くこととする。	・周りの人の話を興味をもって聞き、理解しようとする。	・相手の言葉を聞いて、思いや考えを理解しようとする。	・相手の言葉をしっかりと聞いて、思いや考えを理解する。	・相手の考えを否定せず、理解しようとして聞く。	・相手の思いや考えも、自分の思いや考えと比較しながら、真実な態度で聞く。	
行動	・誰かと同じ場所で同じことをして楽しむ。			・気の合う友達と想いを共有したい。一緒に遊ぶことを楽しむ。	・友達と一緒に力を合わせて活動することを楽しむ。	・友達や学級で協力して活動に取り組む。	・自分の役割を自覚し友達や学級で協力して活動に取り組む。	・自分の役割や責任を自覚し、互いのよさを生かしながら協力して活動に取り組む。	・給学年の生徒や地域の人たちなど人間関係の幅を広げ、円滑な人間関係を作ることができる。	
交流	・園や学校で出会う保護者や小学生、中学生、地域の方たちの温かい声を感じ、楽しみをもつ。				・地域のよさを知り、地域の行事に参加する。	・地域のよさを知り、地域の行事の手伝いをする。	・地域の一人ひとりを知り、地域の一人として活動する。	・地域の一人としての自覚を持ち、地域のために積極的に活動することができる。		

「最適な教育環境の整備」については、学校は地域の実態に応じた学校運営ができるよう、家庭や地域との連携による授業や体験活動、学校行事等を行い、開かれた学校づくりを進めていくことが重要です。

（２）学校・地域の「共創空間」の創造

1) 地域の歴史・特色をいかした施設整備

新校準備会等で挙げた意見を踏まえ、地域の歴史や特色となるものについては、新校に引き継いでいきます。

※今後の新校準備会での意見を踏まえ、記載予定です。

2) 地域の拠点となる機能的な施設整備

地域に開かれた学校づくりを推進する上で、学校・地域が連携協力する必要があります。また、地域の実情に応じた特色ある教育活動を展開するため、地域住民の協力が必要となります。

3) 避難所機能を有した施設整備

向山校区は、自然災害による浸水のリスクが想定されています。関係機関と連携し、児童生徒の安全・安心を確保するとともに、地域住民もハザードマップにおける浸水想定よりも高い位置に避難できる施設を検討します。また、分散備蓄倉庫、貯水機能付給水管、中水道設備（雨水利用）、太陽光発電設備等の整備を検討します。

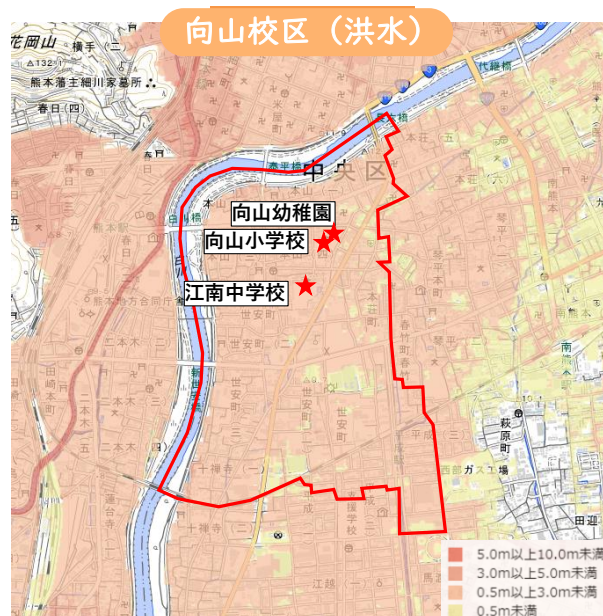


図 2.3 向山校区周辺に発生する自然災害の想定規模
出典：熊本市ハザードマップ、(R3(2021).4.1)

4) 余剰地及び余剰スペースの活用

新校開校後の余剰地及び余剰スペース※1は、地域にとって貴重な財産です。これらは、「まちづくり」を見据えながら、有効活用していくことが求められています。

今後、余剰地及び余剰スペースの利活用について、地域住民へのアンケート、民間事業者とのマーケットサウンディング※2等を早期に実施していきます。詳細は、第6章にて示します。

※1「余剰地及び余剰スペース」とは、学校施設の一体整備等により敷地に余剰が発生する場合の当該敷地及びスペースをいいます。

※2 公共施設の整備や運営、公的不動産の利活用等の事業検討段階において、民間事業者の意見や新たな提案等を把握し、新たな事業案件の形成や事業の進展を図ることを目的として実施する市場調査・情報収集のことをいいます。

6. 放課後児童育成クラブ

放課後児童育成クラブや放課後子ども教室等、こどもの安全・安心な居場所の確保を図るため、学校施設の有効活用や、民間事業者による魅力的なサービス提供の可能性を検討します。

第3章 施設整備の基本的な考え方

1. 計画地について

(1) 計画地の選定

新校の建設候補地については、校舎及びグラウンドの建設用地として、まとまった敷地の確保が可能であることを条件に、(1) 江南中学校敷地、(2) 向山小学校・向山幼稚園敷地を想定し、敷地面積や動線計画、グラウンド面積の確保等の観点から、各建設候補地について比較検討を行いました。総合評価の結果、相対的に敷地が広く、より良い教育環境の整備が可能なることから、(1) 江南中学校敷地を計画地とします。

表 3.1 計画地の比較

			江南中学校敷地		向山小学校・向山幼稚園敷地		
配置イメージ（例）							
敷地面積			○	23,240 ㎡	△	19,595 ㎡	
動線計画	完成後	△	園児・児童・生徒動線と車両動線の分離が課題				
	工事期間中	△	工事車両動線と生徒動線の分離が課題 工事期間が長くなる可能性がある				
グラウンド 面積	グラウンド	○	5,500 ㎡前後（目安） 200m トラック、100m 直線が確保可能				
	サブグラウンド	○	概ね 2,000 ㎡以上確保可能				
建設費			○	既存体育館・武道場（平成 15(2003)年建築）の活用が可能			
テニスコート			△	敷地内に確保できないため、向山小学校敷地への整備を検討			
開発許可			○	基本的に開発許可を要しない			
工事期間中の仮設校舎			△	中学生が仮設校舎となる			
総合評価			○	基本的に敷地内での教育活動が可能 接道の課題については、継続的に検討する			

			向山小学校・向山幼稚園敷地	
敷地面積			△	19,595 ㎡
動線計画	完成後	○	園児・児童・生徒動線と車両動線の分離が可能	
	工事期間中	○	工事車両動線と児童動線の分離が可能 一般的な工事期間で建設可能	
グラウンド 面積	グラウンド	△	5,000 ㎡前後（目安） 160m トラック、80m 直線程度しか確保できない	
	サブグラウンド	△	1,000 ㎡程度しか確保できない	
建設費			△	全施設を建て替える必要がある
テニスコート			△	敷地内に確保できないため、江南中学校敷地への整備を検討
開発許可			△	開発許可を要する可能性があり、道路拡幅・雨水貯留等が必要になる可能性がある
工事期間中の仮設校舎			△	小学生に加え、幼稚園も仮設園舎となる可能性がある
総合評価			△	敷地内での教育活動が困難

※配置イメージ(例)の階数は、あくまでも例であり、変わる可能性があります。

(2) 計画地の概要

計画地の概要を以下に示します。

表 3.2 敷地概要

項目	江南中学校
所在地	熊本市中央区本山町 75 番地
敷地面積	23,240 m ²
インフラ整備状況	給 水：北側に φ100mm 敷設 汚水排水：北側に φ900mm 敷設 西側に φ250mm 敷設 都市ガス：周辺敷地より供給可能 電 力：周辺敷地より供給可能 通 信：周辺敷地より供給可能

敷地における法規制や条件を以下に整理します。

表 3.3 敷地における法規制等

項目	江南中学校
用途地域	第二種住居地域
建蔽率/容積率	60%/200%
防火・準防火	準防火地域
日影規制	測定面4.0m 規制時間5h、3h
道路斜線	勾配1.25
隣地斜線	立上り20m+勾配1.25
建築物等の高さ	—
都市計画	熊本都市計画区域
区域区分	市街化区域
熊本市都市マスタープラン、立地適正化計画	都市機能誘導区域、居住誘導区域
ハザードマップ	0.5m～3m未満（洪水）
埋蔵文化財包蔵地	指定なし
接道	北側：本山町本山4丁目第1号線 （最小幅員6.0m、最大幅員7.1m）

2. 施設規模の検討

(1) 施設規模適正化の検討

1) 既存施設の活用

- ・新設校舎とのコンパクトな動線や良好な教室・校庭・体育館環境を確保しながら、経過年数が浅い既存体育館と武道場を活用することで、新築する建物面積を削減し、建設費の抑制に繋がります。

2) 施設の共用化

- ・幼稚園・小学校・中学校と一部共用化を図ります。
- ・特別教室を、前期・後期課程で共用して使用します。

3) 給食調理場

- ・現在、向山小学校については自校式による給食提供を行っており、江南中学校については日吉共同調理場からの配送を受けています。
- ・新校における給食の提供については、他の共同調理場からの配送を前提に検討を行います。

(2) 想定諸室（案）

上述の検討や既存各校の諸室を踏まえ、施設一体型義務教育学校の諸室を以下のように想定します。

エリア	室名
普通教室	通常学級、特別支援学級、少人数教室
特別教室	総合図書館、理科室、図工・美術室、技術室、調理室、被服室、音楽室、各準備室、カウンセリング室、カウンセラー室、多目的活動室
管理諸室	職員室、校長室、事務室、会議室、放送室、保健室、児童生徒会室、教材・物品室、職員更衣室、児童生徒更衣室
体育施設	体育館、更衣室、多目的トイレ、倉庫、武道場、プール
共用部分	昇降口、配膳室、児童生徒会室、児童生徒更衣室、その他共用部
幼稚園	保育室、通級指導教室、遊戯室、職員室、園長室、教材室、職員更衣室
その他	地域連携室、児童育成クラブ、体育倉庫、部室、屋外トイレ
	想定面積：10,000～11,000㎡程度

3. 施設配置の検討

以下に示す前提条件をもとに、敷地内の配置・動線計画の検討を行いました。

- ・日当たりがよく、可能な限り整形で、広いグラウンド環境を確保します。
- ・児童生徒の登下校動線、来客者の車両動線に配慮した上で、歩車分離を明確にし、安全性に配慮した配置とします。
- ・1階諸室への搬出入に配慮した車両動線を確保します。
- ・武道場、第一体育館は既存施設を利用

前節の条件から、施設配置の比較検討を行いました。

表 3.4 配置比較表

			現況	案① 校舎北側配置（一部仮設校舎）	案② 校舎西側配置（仮設校舎なし）	案③ 校舎南西側配置（仮設校舎なし）
配置イメージ						
義務教育学校	教室環境	陽当たり	◎ 南面	◎ 南面	○ 東面	○ 東面
		前面環境	◎ グラウンド向き	◎ グラウンド向き	◎ グラウンド向き	◎ グラウンド向き
	校庭環境	陽当たり	◎ 校舎の影が落ちない	◎ 校舎の影が落ちない	△ 午後に校舎の影が落ちる	△ 午後に校舎の影が落ちる
		面積	○	○ 参考の目安 約7,000㎡	○ 参考の目安 約6,800㎡	△ 参考の目安 約6,500㎡
		形状	◎ 概ね整形	◎ 概ね整形	◎ 概ね整形	△ 不整形
		野球場	○ 右翼：約60m、左翼：約82m	◎ 右翼：約70m、左翼：約85m	○ 参考の目安 右翼：約65m、左翼：約90m	△ 参考の目安 右翼：約85m、左翼：約80m 中堅方向が狭い
	体育館環境		◎ 陽当たり、通風とも良好	◎ 陽当たり、通風とも良好	△ 陽当たり、通風とも確保が困難	△ 陽当たり、通風とも確保が困難
	動線	登下校	◎ 正門から校舎が近い	◎ 正門から校舎が近い	○ 正門から校舎がやや遠い	△ 正門から校舎が遠い
		校舎内	○ 比較的コンパクトな動線	○ 比較的コンパクトな動線	○ 比較的コンパクトな動線	○ 比較的コンパクトな動線
	セキュリティ	見守り	△ 管理諸室の正門側（北側）に廊下があるため、正門が見通しにくい	◎ 管理諸室から正門付近が見通しやすい	△ 管理諸室が正門から遠く、見通しも困難	△ 管理諸室が正門から遠く、見通しも困難
		歩車分離	— 門が同一のため、工夫が必要	— 門が同一のため、工夫が必要	— 門が同一のため、工夫が必要	— 門が同一のため、工夫が必要
	仮設校舎		—	△ 特別教室の一部が仮設校舎	○ 仮設校舎なし	○ 仮設校舎なし
	工事期間		—	○ 仮設校舎が必要なため、工期がやや長い	○ 2期工事となるため、工期がやや長い	◎ 1期工事で建設可能なため、工期がやや短い
	建設費		—	△ 仮設校舎が必要	◎ 仮設校舎が不要	◎ 仮設校舎が不要
	近隣配慮		— 大きな問題はない	◎ 現況からの変化が小さい	△ 現況からの変化が大きい	△ 現況からの変化が大きい
幼稚園	登園動線	正門からの距離	◎ 門から近い	◎ 正門から近い	△ 正門から遠い （南西側道路の活用を検討）	△ 正門から遠い （南西側道路の活用を検討）
		駐車・駐輪場からの距離	△ 駐車場がない	○ 駐車場・駐輪場から近い	△ 駐車場・駐輪場から遠い	△ 駐車場・駐輪場から遠い
	生活環境		○ 陽当たり良好で、比較的落ち着いた環境	○ 陽当たり良好で、比較的落ち着いた環境	○ 陽当たり良好で、比較的落ち着いた環境	○ 陽当たり良好で、比較的落ち着いた環境
園庭環境			◎ 面積が非常に大きく、南面で陽当たりがよく、園舎から近い	○ 南面で陽当たりがよく、園舎から近い	○ 東面で午前中の陽当たりがよく、園舎から近い	△ 陽当たりがよく、園舎から近いが、形状が不整形
総合評価				◎ 学校、幼稚園とも良好な環境が確保できる 仮設校舎の規模縮小を継続的に検討	○ 仮設校舎不要だが、グラウンド形状、正門から校舎の距離等に課題がある	○ 仮設校舎不要だが、グラウンド形状、正門から校舎の距離等に課題がある

※上記の評価は今後の詳細検討により変わる可能性があります

4. 施設計画の検討

- ・ ※各諸室の整備方針について記載します。

5. その他の検討事項

(1) 地域連携機能の考え方

既存小・中学校の地域との連携のあり方やカリキュラム等を踏まえて、地域連携室の機能や配置を検討します。

(2) 登下校時の安全性の確保

正門が1つのため、自動車や登下校時・登園時の歩行者の通行に配慮した計画とします。
また、給食搬送車両等についても、児童生徒の安全性の確保について検討します。

(3) 環境への配慮

再生可能エネルギーの最大限の導入及びエネルギーの効率的な利用等、環境に配慮した計画とします。
基本計画における主な配慮事項を以下に示します。

- ・ 自然光及び自然通風を可能な限り取り込めるような計画とします。
- ・ 太陽光発電設備の最大限の導入を検討します。
- ・ 雨水利用の採用を検討します。
- ・ 熊本市公共建築物等における木材利用推進方針に基づき、内装材の木質化を検討します。
- ・ 省エネ・再エネ技術・設備の導入に際しては、ライフサイクルコストを踏まえた検討を行います。
- ・ ZEB※（Net Zero Energy Building）化等の検討を行います。

※快適な室内環境を実現しつつ、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物をいいます。一次エネルギー消費量の50%以上を削減する「ZEB Ready」があります。また、延べ面積が10,000平方メートル以上の建築物において、「ZEB Ready」を見据えた「ZEB Oriented」、一次エネルギー消費量の75%以上を削減する「Nearly ZEB」、100%以上を削減する『ZEB』があります。

(4) 工事期間中の児童・生徒・園児への配慮及び教育活動の工夫

- ・ 既存学校への騒音、振動、粉じん等について、生徒だけでなく周辺住民に対しても配慮した計画とします。
- ・ 工事期間中も児童・生徒がグラウンドや体育館等を継続して利用できるよう配慮します。

(5) 学校体育館の騒音・振動による影響

第二体育館を新設する場合、その配置によっては、周辺の住宅等に騒音・振動の問題が発生する可能性があります。第二体育館を新設する場合は、配置検討の中で十分な配慮を行っていきます。

第4章 概算事業費

本事業では、国の補助制度を積極的に活用し財源確保に努めるとともに、有利な市債の活用などの検討を行います。また、民間事業者へのアンケート調査の結果を用いてコスト削減率を算出し、概算事業費を比較検討します。

※配置計画が決定後概算事業費を記載します。

第5章 事業手法

1. 事業手法の比較と事業手法のイメージ

(1) 事業手法の概要

本校で想定される事業手法（従来方式、デザインビルド（DB）方式、DBO方式、PFI（BT0）方式）の概要を以下に整理しました。

表 5.1 事業手法の概要

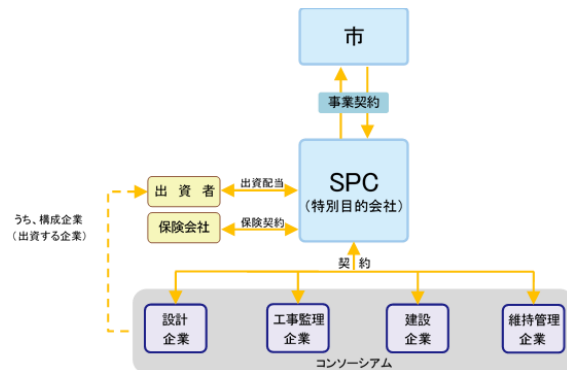
(1) 従来方式	
市が、国庫補助金や起債等により自ら資金を調達し、設計・建設、維持管理等について、業務ごとに仕様を定め、民間事業者に単年度業務として個別に発注等を行う事業方式 ◇資金調達 → 市 ◇設計、建設、維持管理 → 市	従来方式の概念図
(2) デザインビルド（DB）（design build）方式	
民間事業者（設計企業、工事監理企業、建設企業の共同事業体等）が、市から公共施設の設計建設を一括して請負、実施する事業方式 ◇資金調達 → 市 ◇設計、建設 → 民間 ◇維持管理 → 市	DB方式の概念図

(3) デザインビルド・オペレート (DBO) (design build operate) 方式

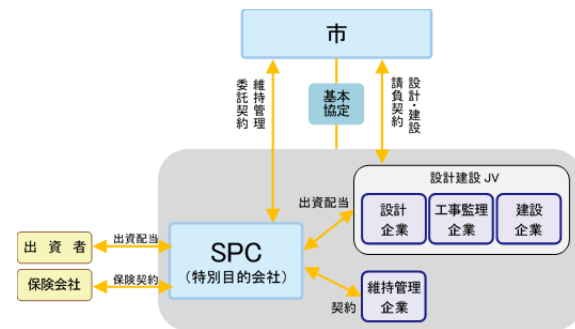
市が国庫補助金や起債等により自ら資金調達し、民間事業者が公共施設等の設計 (Design) ・建設 (Build) ・維持管理 (Operate) を行う事業方式

契約形態としては、PFI 手法と同様、設計・建設・維持管理を包括する事業計画を締結する方法と、基本協定と、それに基づく設計・建設請負契約、維持管理委託契約を組み合わせる方法等が見られる

◇資金調達 → 市
◇設計、建設 → 民間
◇維持管理 → 民間



※SPC（設計・建設・維持管理・運営）と事業契約を締結する場合



※設計建設等の共同事業体、SPC（維持管理・運営）と別契約を締結する場合

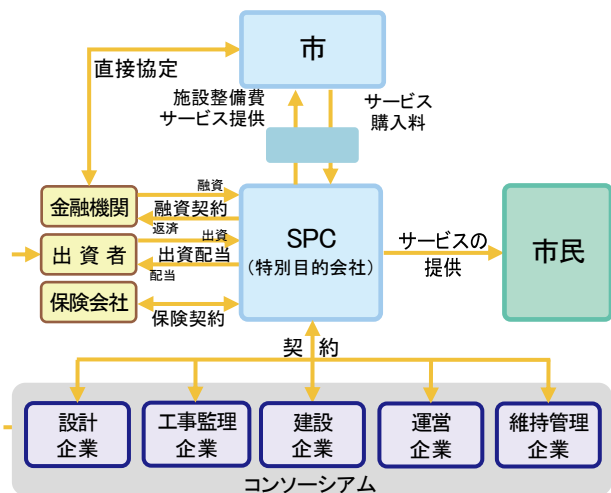
DBO方式の概念図

(4) PFI (Private Finance Initiative) 方式

PFI とは、平成 11 年 (1999 年) 7 月「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI 法) に基づき、民間の資金や経営能力・技術力を活用して、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理等を効率的・効果的に整備する事業方式

◇資金調達
→ 市・民間
◇設計、建設、維持管理
→ 民間

うち、構成企業（出資する企業）



PFI方式の概念図

※ (1) ~ (4) の学校運営はすべて市

(2) 事業手法の特徴

本校で想定される事業手法における特徴の整理を行いました。

表 5.2 事業手法の比較

	従来方式	DB方式	DBO方式	PFI (BTO) 方式
コスト削減	設計、建設、維持管理等の分割発注・仕様発注のためコスト削減の余地は小さい。	設計、建設の一括発注により効率化が図られコスト削減が可能。 起債を活用することで、民間より低い金利での資金調達が可能となり、コスト削減ができる。	設計、建設、維持管理の一括発注により効率化が図られコスト削減が可能。 地方債を活用することで、初期段階のコスト削減ができる。 SPC を設立する場合、SPC の運営費等による追加コストが発生する。	設計、建設、維持管理の一括発注により効率化が図られコスト削減が可能。 地方債を活用せず、全て民間資金を活用することで、初期段階の財政負担が軽減される。 民間資金の調達コスト及びSPCの運営費等の追加コストが発生する。
財政負担の平準化	施設整備費用の一括の支払いによる財政負担が大きい。地方債の活用により一定の平準化は図れる。	施設整備費用の一括の支払いによる財政負担が大きい。地方債の活用により一定の平準化は図れる。	施設整備費用の一括の支払いによる財政負担が大きい。地方債の活用により一定の平準化は図れる。	割賦支払いにより単年度の財政負担が軽減され、平準化が図れることによるメリットが大きい。
資金調達	施設整備費用として、市が一括して資金調達をする必要があるため、事業当初に相当の財源が必要となる。	施設整備費用として、市が一括して資金調達をする必要があるため、事業当初に相当の財源が必要となる。	施設整備費用として、市が一括して資金調達をする必要があるため、事業当初に相当の財源が必要となる。	施設整備費用の一部を割賦払いを行うため、事業当初の市の資金調達が軽減される。
サービス水準	分離発注、単年度契約となるため、民間ノウハウの発揮によるサービス水準の向上は限定的となる。	設計の段階から施工事業者が関与するため、民間事業者の創意工夫の発揮によって、魅力ある教育環境の施設計画が可能となる。	設計の段階から維持管理・運営事業者が関与するため、サービス水準の向上とリンクした計画策定が可能となる。 民間のノウハウを活かした施設整備により運営によるサービス水準の向上が期待できる。	設計の段階から維持管理・運営事業者が関与するため、サービス水準の向上とリンクした計画策定が可能となる。 民間のノウハウを活かした施設整備により運営によるサービス水準の向上が期待できる。
事業の安定性	通常の施設整備手法で多くの実績があり、直営による運営であるため、安定した運営が期待できる。	「設計・施工一括発注方式」により、設計だけでなく施工責任を一元化できること、一元化させることで事業期間を短縮できることといったメリットがある。	コンソーシアムによる参加により、設計会社、建設会社等が事業終了まで関わることで、サービス水準の向上や安定した事業に繋がる。	市と金融機関がモニタリングを行うことで、安定した事業の実施に繋がる。 コンソーシアムによる参加により、設計会社、建設会社等が事業終了まで関わることで、サービス水準の向上や安定した事業に繋がる。
企業の参画しやすさ	通常の発注方法であり、企業は参画しやすい。	参画には、官民連携事業に関する知識やノウハウが必要となり、グループ組成が必要。	参画には、官民連携事業に関する知識やノウハウが必要となり、グループ組成が必要。	参画には、官民連携事業に関する知識やノウハウが必要となり、グループ組成が必要。
地域経済への影響	民間への委託が設計、解体、建設、維持管理、運営を分離発注するため、地域企業の参画もしやすい。	地域企業の受注機会が一度に限られる。	地域企業の受注機会が一度に限られる。	地域企業の受注機会が一度に限られる。
工期	設計、施工を個別に発注するため工期短縮が限定的になる可能性がある。	民間ノウハウの活用により工期短縮ができる可能性がある。	民間ノウハウの活用により工期短縮ができる可能性がある。	民間ノウハウの活用により工期短縮ができる可能性がある。

(3) 民間活力・ノウハウを活用した学校施設の管理・運営の事例

学校施設の管理・運営の一部を、民間活力・ノウハウの活用により実施することで、サービスの質の向上が期待できます。運営業務を含む学校 PFI 事業の事例、その他学校施設の運営事例は、以下に示すとおりです。

表 5.3 運営業務を含む学校PFI事業

① 本町田地区・南成瀬地区 小学校整備等 PFI 事業（事業期間：～令和 25 年 3 月）（東京都町田市）	
学校施設活用業務	・学校施設を学校教育に使用するだけでなく、学童保育クラブやまちとも等でも利用するとともに、地域の文化・スポーツ団体等が利用できるように開放 ＜適用施設＞ ・ラーニングセンター、特別教室、体育館（屋内運動場）、グラウンド（屋外運動場） ※事業者は、施設使用料金（条例等で定める）及び参加料金を徴収し、市に納入
児童への放課後活動の提供業務	・放課後に「多様な体験・活動」が経験できる機会の提供 ・学童保育クラブ・まちともとは異なる、新たな小学校の学校施設活用区画の諸室を使用した放課後活動について、事業者の豊富な知識やノウハウ、経験等を活かした事業運営を行う ＜コンテンツの提供＞ ・知育、学習支援事業、運動、体操、ダンス、体力づくり、児童の体験創出事業 ※事業者は、コンテンツ参加者から参加料金を徴収し、市に納入
② 藤久保地域拠点施設整備等事業（事業期間：～令和 29 年 3 月）（埼玉県三芳町）	
市民活動・交流促進支援業務	・複合公共施設の機能が連携し、利用者や広く町民を対象とした全館イベント等を、毎年 1 回以上実施するものとし、その企画及び運営を行う ※サービス対価により実施
民間収益施設運営業務	- 複合公共施設の運営・維持管理に支障のない範囲で、施設を有効活用しコワーキング機能を必須とするほか、カフェ、コンビニエンスストア、自動販売機、EV 急速充電スタンド等、整備を伴う任意の収益事業を企画提案して実施 ※独立採算にて実施
自主事業（任意）	- 本施設の運営・維持管理に支障のない範囲で、小学校のうち学校・地域連携ゾーン、複合公共施設、外構（駐車場含む）を有効活用した自主事業（子育てゾーンや公民館の休館日、開館時間外などを活用したカルチャー教室などのソフト事業）を企画提案して実施 ※独立採算にて実施
付帯施設（付帯事業）	本施設の用途及び目的を妨げない範囲において、事業予定地（西側）の一部を有効活用し、地域活性化及び利用者の利便性の向上に寄与する機能を有する付帯施設を整備し、付帯事業を行う
③ 北九州市立思永中学校整備 PFI 事業（事業期間：～令和 6 年 3 月）（福岡県北九州市）	
民間収益事業	・事業地のうち、大門木町線に接する一定の範囲内に、事業者の提案による民間収益施設を設ける。 ・大門木町線沿線の活性化や利便性の向上等、市民サービスの向上に寄与する機能を有する施設や屋内温水プールの機能と連携する機能を有する施設とする。

	※独立採算にて実施
④ (仮称) 富士見こども施設整備計画(事業期間: ~令和7年3月)(東京都千代田区)	
児童健全育成 機能運営業務	・0歳から18歳までの幅広い年齢層の子どもとその保護者の健全な遊び場や地域活動の拠点を提供 ・児童健全育成機能専用の使用スペースに加えて、富士見小学校等と共用可能なスペースは極力共用化し、施設の有効かつ効率的な利用を進める中で、現在の富士見児童館で実施している事業を継承しつつ、各業務サービスを提供 ・専用施設に加え、小学校体育館(体育室)、図書室、屋外遊戯場等にて実施
⑤ (仮称) 八千代市立萱田小学校分離新設校及び総合生涯学習施設整備・運営事業PFI事業(事業期間: 令和4年3月(終了))(千葉県八千代市)	
付帯事業	・本事業で整備する総合生涯学習施設の一部を利用して、自らの企画・主催による付帯事業を実施 ・スポーツ・レクリエーション施設(メインプール、幼児用プール、トレーニング室、スタジオ)にて実施 ※得られる収入は事業者の収入

表 5.4 その他学校施設の運営等を実施している事例

① 学校施設地域管理業務委託・総合型地域スポーツクラブ(神奈川県川崎市)	
対象施設	・学校施設地域管理業務委託を区毎に包括発注 ・川崎区、中原区、高津区は、総合型スポーツクラブ(NPO 法人)が実施
業務内容	<学校施設地域管理業務> ・校務・庶務的業務(毎日・適時)、教育環境維持業務、受付業務(毎日・適時)、安全管理業務(毎日・適時)、学校施設有効活用業務(毎日・適時)、地震・風水害等への対応 <学校施設有効活用業務> ①受付業務 ②施設開放中、施設開放終了時の巡回 ③施設開放終了後の原状復帰・清掃及び、利用者の退室・退校の確認 ④翌日の授業に支障がないよう、施設開放した場所の清掃等の確認、施錠 ⑤学校施設開放運営委員会との連絡調整 <総合型地域スポーツクラブ> ・中学校にて、卓球、バレーボール、ショートテニス、サッカー、脳トレ健康麻雀、ドッジビー等、50種以上実施 ・月額: 1,600円(一般)、年額16,000円(一般)等
② つくば市での学校施設を活用した収益事業を軸にした部活動の地域移行モデル(「未来の教室」実証事業(経済産業省))(茨城県つくば市)	
対象施設	みどりの学園義務教育学校
業務内容	・株式会社エンボス企画が、地域スポーツクラブ(みどりのスポーツ&カルチャークラブ)を運営・管理、地域スポーツクラブは、学校施設を利用した諸事業である地域クラブ(中学生向け)、スクール活用(小学生向け)等を行う ・地域クラブ・スクールの活動及び会員・指導者の確保、ICTツールの導入、経済的な支援を要する家庭への財源確保、指導者の評価指標策定に向けた調査等
③ VIVISTOP(東京都中野区)	
対象施設	新渡戸学園(VIVISTOP NITOBE)

業務内容	・ VIVISTOP とは、7 カ国 11 拠点で展開する、子どもたちにクリエイティブラーニング環境を提供するスペース ・ VIVISTOPNITOBE は新渡戸文化学園内にて実施 ・ 新渡戸文化学園が取り組む、教科横断的な学習活動、リアルな社会活動への挑戦を共に考え学園の最上位目標である Happiness creator の育成に向けた授業の実施 ・ 放課後プログラムも実施
------	---

2. 事業者の意見

※マーケットサウンディングにおける意見を記載予定。

3. 事業手法の導入理由

(1) 民間活力・ノウハウの活用【定性的評価】

※サウンディングの結果を基に検討した内容を記載予定

(2) VFMの達成【定量的評価】

※サウンディングの結果を基に検討した内容を記載予定

第6章 余剰地・余剰スペースの活用について

余剰地・余剰スペースの活用方法について、民間事業者を対象としたマーケットサウンディングを実施しました。調査概要は以下に示すとおりです。

表 6.1 調査概要

項目	概要
調査時期	令和5年（2023年）11月20日（月） ～令和5年（2023年）11月30日（木）
調査対象	設計・建設企業、維持管理企業、開発・デベロッパー、運営企業、ファイナンス、その他企業を含む14社
調査方法	アンケート形式

余剰地・余剰スペースについて、マーケットサウンディングの中で出された民間事業者からの主な意見を以下に示します。

＜市場性について＞

- ・熊本市内中心地に立地しているため、市場性が高い
- ・国道沿線にあり、周辺人口も多い地域であるため、市場性が高い
- ・幹線道路や住宅に囲まれ、人流が見込める立地のため、市場性が高い
- ・市街中心部の敷地であり、敷地形状と面積も良いことから、非常性が非常に高い

＜活用案について＞

回答が多かった活用案を以下に示します。

表 6.2 活用案（江南中敷地、向山小学校・向山幼稚園敷地）

活用案	概要
居住系の施設	分譲住宅・賃貸マンション等
物販系の施設	スーパー・コンビニ等
教育系の施設	学習塾、カルチャースクール等
医療・福祉系の施設	保育所、学童保育、地域福祉等

敷地活用については、市内中心地に位置することから、市場性が高いという意見が多く挙がりました。周辺は住宅地であることから、居住系・物販系の施設の回答が多く、学校との親和性の観点から教育系の施設の回答も多く挙がりました。

第7章 事業スケジュール

事業スケジュールについては検討中です。基本構想に示す、スケジュールの最短例は以下のとおりです。

従来手法：最短例

令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)
基本構想 策定	基本計画 策定	基本・ 実施設計		発注 準備	新校舎等建設工事			校庭整備
			解体設計				解体工事	

最短令和11年度以降開校

PFI/PPP手法：最短例

令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)
基本構想 策定	基本計画 策定	事業者 募集等	基本・ 実施設計	新校舎等建設工事			解体工事	校庭整備

最短令和11年度以降開校

第8章 検討記録

1. ワークショップ

新設校が魅力ある学校となるよう、児童生徒および職員向けに新たな学校づくりワークショップを実施し、様々なアイデア・意見を頂きました。実施概要を以下に示します。

表 8.1 実施概要

対象	実施日	対象	内容
生徒 (江南中学校)	令和5年(2023年) 10月25日(水)	1学年・2学年	今の学校、地域で好きなこと
	令和5年(2023年) 11月6日(月)	1学年・2学年	新しい学校でしたいこと・あったらいいもの
児童 (向山小学校)	令和5年(2023年) 12月19日(火)	3学年・4学年 5学年・6学年	新しい学校でしたいこと・あったらいいもの
職員	令和5年(2023年) 11月22日(水)	江南中学校・向山小学校 ・向山幼稚園の職員	より良い学び場の創出、より良い職場環境の創出、幼稚園・小学校・中学校の連携促進

(1) 児童生徒向けワークショップの結果

基本計画策定にあたり、ワークショップで頂いた児童生徒の意見を、「3. 向山校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向けて」(p.6)の検討事項を踏まえ、整理しました。

表 8.2 【新しい学びの創造】に向けた機能(児童生徒ワークショップ)

検討事項	主な意見の分類
①小中一貫教育に適した教育環境の整備	・小学校1年生から中学校3年生みんなが参加する合唱コンクールをしてみたい。 ・前のように中学生と小学生と一緒に遠足に行きたい。他学年で交流する機会がもっとほしい。 ・食堂や屋上など、好きなところで給食を食べたい。 ・屋上に出てみたい。屋上は涼しくて、開放感を得られる場所だから。みんなで集まる場が欲しいから。 ・誰でも自由に使えるような部屋を作って、友達や他学年と交流したい。学年を超えて仲が深まる。 ・江南中1階のサポートルームのように、他学年と交流でき、誰でも自由に使えたり遊べたりする部屋があると良い。 ・休み時間に他のクラスや学年の教室に自由に入りたい。友達をいっぱい作れるから。 ・小学生と中学生の共同の部活があると、みんなで協力して目標を達成できる。 ・学年の全員が使える大きな教室があるとよい。

検討事項	主な意見の分類
②幼小連携の推進 ・幼小中一体整備	・幼稚園、小中学校が合同で文化祭や体育祭などの行事をしてみたい。人数が沢山いて、今までよりも盛り上がるし、もっと賑わうことができるから。他学年・小学生と教え合える。 ・中学生、小学生、幼稚園のみんなの教室を見に行ける授業の時間を作ってほしい。中、小、幼一緒の行事や旅行をしたい。
③特色あるカリキュラム、教育課程の編成	・動物の飼育をしてみたい。生物を飼うことで責任感を持てると思ったから。 ・さまざま体験ができる職業体験の授業を受けたい。 ・パソコンなどの機械にふれたいのでプログラミングの授業があるといい。 ・コンピューター室があると、パソコンの使い方とか覚えられて、大人になって役に立つと思う。

表 8.3 【学校・地域の「共創空間」の創造】に向けた機能（児童生徒ワークショップ）

検討事項	主な意見の分類
①地域の歴史・特色を いかした施設整備	・体育祭は、クラスの団結力が高まるし、他学年との触れ合いもある。デンマーク体操という江南中伝統のダンスもあるから。 ・合唱コンクールは、皆と協力できて、練習でも本番でも一緒に頑張り、成長することができるから。 ・江南中学校独自の作法（座礼、校門一礼など）があること。この作法を受け継いでいきたい、大事にしていきたい。 ・みんなでたくさん過ごした時間や空間が好き。いろいろな思い出が詰まっている。 ・体育館は、広くて運動できて、体育大会で書いたパネルが飾ってあるから。 ・教室はクラスの明るさが出ているから。廊下はクラスをまたいで騒いでいるのを見ると楽しくなる。 ・図書館は本の香りがして落ち着く。 ・職員室で先生と話せること。コーヒーの香りがするもの好き。 ・音楽室は、たくさんの楽器に囲まれているから。 ・校門は、登校の様子が見えるから。 ・金木犀の木がいい匂いだから。部活に行くとき、リラックスできるから。自然がいっぱいなところ。 ・白川河川敷の風景が好き。小学校の頃、自転車やブレイブボードの練習をして楽しかったから。 ・アミュプラザは、友達とよく遊ぶ場所でもあるし、色んな人が行きかうから。 ・三角公園と平成中央公園は、友達と遊んだりしたり思い出がある。いっぱい遊べるから。
②地域の拠点となる 機能的な施設整備	・たくさんの人と触れ合えて、地域の人や友達、先輩、後輩などと仲が深まるから、地域の人たちの朝ボランティアや地域の夏祭り、町内運動会を大事にしたい。 ・優しい人柄が好き。朝でも夕方でも、地域の方々に挨拶をすると、挨拶を返して下さって、コミュニケーションをとることができ、心があたたかくなって、とてもうれしかったから。 ・運動以外の部活など、いろんな部活があると、運動が苦手な人も夢中になれる。 ・広い畑があると、植物にふれられる体験ができる。地域の人にも使える畑があれば、人とのつながりができる。 ・地域の方が子供達に色々な事を教えたり遊んであげたりできる場所が欲しい。

(2) 職員向けワークショップの結果

基本計画策定にあたり、ワークショップで頂いた職員の意見を、「3. 向山校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向けて」(p.6)の検討事項を踏まえ、整理しました。

表 8.4 【新しい学びの創造】に向けた機能（職員）

機能・役割の細分化	主な意見の分類
①小中一貫教育に適した教育環境の整備	・異学年交流、ききとり、別室登校、おちつく場、プレイルーム、学習ルーム、スピーキングテスト、WEB会議などに使用するため、多目的室が欲しい。各学年にあると良い。 ・交流の場を作る。例えば、広々とした給食ルームで一緒に食べる。 ・日常的なこども同士の交流は大事にした方が良い。 ・交流スペースのようないろいろな人と話せる教室が欲しい。 ・先生同士の交流も少ないため、先生方が気軽に話せる場所があると良い。
②幼小連携の推進・幼小中一体整備	・幼稚園児でも遊べて、小中学生も上履きのまま出られる中庭が欲しい。
③社会状況の変化に対応する教育環境の整備	・多様性の視点もふまえて、更衣室が欲しい。 ・こどもたちは様々な背景を持っているため、多様性の視点から更衣室を設置してほしい。 ・不登校生の居場所が無いので欲しい。 ・単純に職員室が狭く、職員増への机を置くスペースにも困っていますし、移動自体がしにくい状況です。単純に執務や作業ができるスペースを確保してほしいです。 ・気軽にディスカッションできるようなコミュニケーションスペースを職員室に設置してほしい。
④特色あるカリキュラム、教育課程の編成	・廊下に液晶モニターを埋め込み、そこで生徒のタブレット作品を共有する（印刷する必要がなく、動画やプレゼンも共有することができる）。



図 8.1 ワークショップの様子

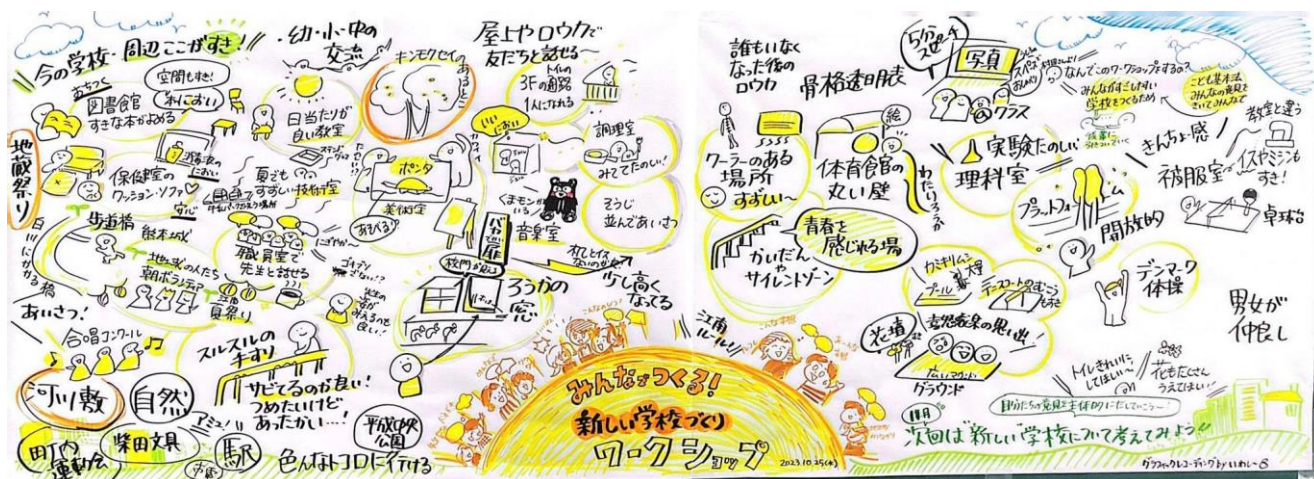


図 8.2 グラフィックレコーディング
(令和5年(2023年)10月25日(水)江南中学校 生徒の意見)

2. 新校準備会

(1) 第1回新校準備会

表 8.5 第1回新校準備会概要

項目	概要
開催日	令和5年(2023年)12月7日(木)
対象	向山校区自治協議会会長、各校のPTA会長、向山幼稚園保護者代表、各校の校長・幼稚園長等
実施方法	対面
参加人数	13人
内容	・規約についての検討 ・委員長・副委員長の選出 ・基本構想、学校建設予定敷地についての協議
資料	・新校準備会委員一覧 ・向山校区 施設一体型 幼稚園・義務教育学校 新校準備会 規約(案) ・向山校区 施設一体型 幼稚園・義務教育学校 新校準備会 組織図 ・江南中学校・向山小学校・向山幼稚園における魅力ある学校づくり基本構想 ・学校建設予定敷地について

表 8.6 主な意見

項目	概要
学校建設予定地について	・中学校敷地の接道について、東側(国道3号線側)の土地を購入し、門を新たにつくることはできないか。 ・小学校敷地と中学校敷地を児童生徒等が行き来できるよう渡り廊下等で繋げることは考えられるか。 ・安全性の観点から、幼稚園児専用の園庭が必要である。 ・児童育成クラブの利用が多く、施設が不足している状況であり、配慮してもらいたい。
その他の意見	・向山校区の歴史が分かる資料を提供してもらいたい。



図 8.3 新校準備会の様子

(2) 第2回新校準備会

表 8.7 第2回新校準備会概要

項目	概要
開催日	令和5年(2023年)2月15日(木)
対象	向山校区自治協議会会長、各校のPTA会長、向山幼稚園保護者代表、各校の校長・幼稚園長等
実施方法	対面
参加人数	13人
内容	・規約についての確認 ・学校建設予定敷地についての協議 ・新校準備会における今後の検討議題及びスケジュールの確認
資料	・向山校区第1回新校準備会 意見まとめと回答 ・新校準備会規約(案) ・江南中学校・向山小学校 敷地比較表 (参考:第1回資料)江南中学校・向山小学校 敷地(現況)の特徴 ・配置検討のための整理事項 ・今後の検討議題及びスケジュール(案) (参考)天明校区施設一体型義務教育学校 新校準備会スケジュール ・九州管内の義務教育学校事例 ・向山校区における園・学校の変遷 ・向山校区新校準備会だより第1号

表 8.8 主な意見

項目	概要
学校建設予定敷地について	・向山小学校敷地と比較して、江南中学校敷地の面積が広く、既存体育館を引き続き使用できるため、江南中学校敷地に義務教育学校を整備した方がよい。 ・江南中学校敷地に義務教育学校を整備する場合は、接道が1箇所しかないため、江南中学校東側(国道3号線側)の土地購入や、敷地南側の現在は使用されていない門の活用等を検討し、園児・児童生徒等の安全確保に努めていただきたい。 ・仮設校舎を建設する際の動線についても示してほしい。 ・向山小学校敷地にテニスコートや野球場のグラウンドを確保した上で、残った敷地の活用についても検討が必要。
幼稚園について	・園庭近くに門をつくる場合には車の出入りが想定されるため、フェンスを設置する等の配慮をお願いしたい。 ・各保育室から園庭に直接出られる環境が必要。また、車で来られる保護者が駐車し、担任と話せるようなスペースが欲しい。また、園庭に幼稚園専用のプールをつくってほしい。
プールについて	・小中学校は、学校に整備せず、民間のプールを活用してもよいのではないか。 ・基本的に小中学校のプールは屋上等を含め、校舎と同じ敷地に整備してほしい。敷地外や民間プールを使うとなると、移動が大変である。 ・小中学校のプールを敷地内に整備しない場合は、災害に備えて防水水槽は設置した方がよい。

その他	・ 向山小学校敷地の一部や江南中学校周辺の敷地を交換したり、幼稚園の敷地を売却し他の土地を購入したりして、江南中学校敷地を整形にすること等は考えられないか。 ・ 仮設校舎に予算を使うより、他に予算を使ったほうがよいのではないか。 ・ 向山地域コミュニティセンターの建替えや学校との複合化については、現時点で建替えを要する状況ではないため、今後も現在の向山地域コミュニティセンターを地域活動の拠点として活用していく。
-----	---



図 8.4 新校準備会の様子

(3) 第3回新校準備会

※作成中です。

(4) 第4回新校準備会

※新校準備会実施後、記載予定です。

(5) 第5回新校準備会

※新校準備会実施後、記載予定です。

(6) 第6回新校準備会

※新校準備会実施後、記載予定です。